

SCREEN ホールディングス (コード 7735)

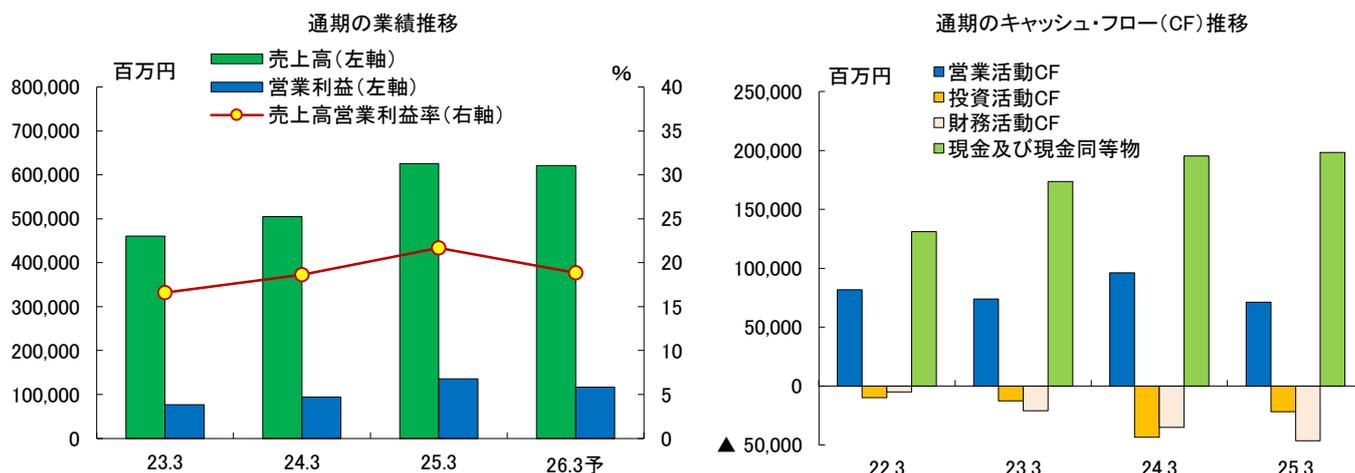
◆通期業績推移(連結) (26.3 予は会社側発表値)

決算期	売上高	営業利益	1株純利益	1株配	営業CF	投資CF	財務CF	現金及び現金同等物
23.3	460,834	76,452	608.2	182.5	73,906	▲12,514	▲20,961	173,660
24.3	504,916	94,164	742.1	223.5	96,255	▲43,456	▲35,142	195,423
25.3	625,269	135,683	1,023.5	308.0	71,234	▲21,772	▲46,466	198,478
26.3予	621,000	117,000	932.1	280.0	—	—	—	—

◆各決算期の中間期業績推移(連結) (26.3 予は会社側発表値)

決算期	売上高	営業利益	1株純利益	1株配	営業CF	投資CF	財務CF	現金及び現金同等物
23.3	218,404	38,172	315.0	—	20,160	▲2,800	▲20,136	132,580
24.3	223,260	38,550	277.8	83.5	68,909	▲18,311	▲18,177	209,610
25.3	277,399	58,231	399.5	120.0	33,494	▲14,527	▲14,729	198,441
26.3予	299,500	54,500	407.7	123.0	—	—	—	—

(CF=キャッシュ・フロー。現金及び現金同等物は各期末値。▲はマイナス。単位は百万円、円)



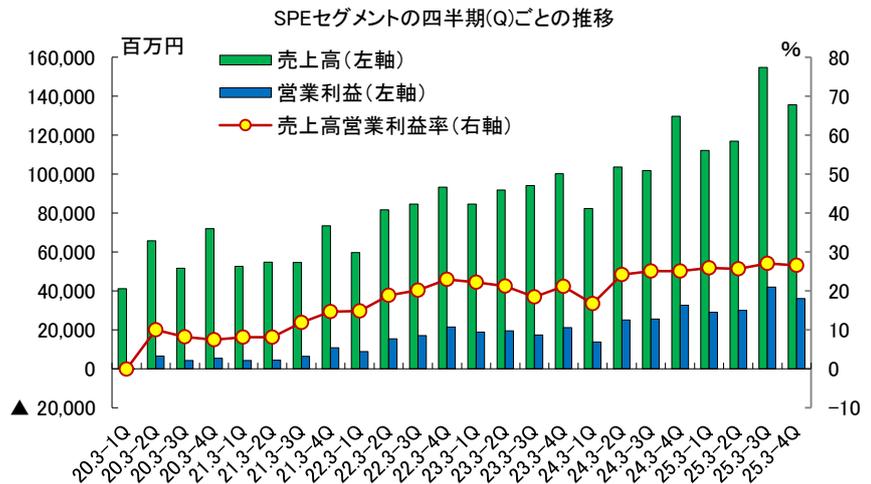
25年3月期の業績概況…25年3月期は、売上高全体の8割以上、営業利益のほとんどを占める主力のSPE(半導体製造装置事業)が顧客の早期納入要請も加わって大きく伸長したことなどにより、前年に比べて売上高は24%、営業利益は44%それぞれ増加した。

当期の業績は、売上高6,252億6,900万円(24年3月期比23.8%増)、営業利益1,356億8,300万円(同44.1%増)、経常利益1,382億6,500万円(同46.7%増)、親会社株主に帰属する当期純利益(以下、当期純利益)994億6,700万円(同40.9%増)となった。

主な事業セグメント別の売上高(対外部顧客)は、SPE5,195億1,000万円(同24.4%増)、GA(グラフィックアーツ機器事業)528億5,200万円(同11.2%増)、FT(ディスプレイ製造装置及び成膜装置事業)328億1,300万円(同46.4%増)、PE(プリント基板関連機器事業)140億9,100万円(同2.9%減)となった。また、主な事業セグメント別の営業利益は、SPE1,369億7,500万円(同41.1%増)、GA42億9,200万円(同0.1%減)、FT30億5,300万円(24年3月期は4億2,500万円の損失)、PE10億6,900万円(24年3月期比42.5%減)となった。

主力のSPEにおいて、四半期(3カ月)ごとの動きでは、赤字となった20年3月期第1四半期(19年4~6月)以降、多少の凹凸はあるものの業績は右肩上がりでも推移している。当期に入っても好調に推移し、第3四半期(24年10~12月)に至っては売上高が1,500億円を超え、

営業利益も約 420 億円と過去最高を記録。売上高営業利益率についても 27.1%という高い水準になった。アプリケーション別ではファウンドリー向けやロジック向けなどが好調に推移し、売上構成比率ではファウンドリー向けが 52% (24 年 3 月期は 47%)、ロジック向けも 8% (前年は 5%) に拡大。地域別では米国向けが減少したものの台湾や中国向けが増加し、売上構成比率では北米向けが 10% (同 17%) に縮小した一方、台湾向けが 21% (同 12%)、中国向けが 44% (同 43%) に拡大した。GA については、POD 装置の売上



が堅調に推移したほか、インクを中心とするリカーリングビジネスの売上が増加し、増収となったが、固定費の増加などによって減益になった。FT においては、装置売上が増加し、営業損益は黒字に回復。PE では、直接描画装置の売上が減少し、大幅な減益となった。

キャッシュ・フロー (以下、CF) の状況について、当期末現在の現金及び現金同等物残高は 1,984 億 7,800 万円 (24 年 3 月期末比 1.6%増) となった。営業活動による CF は、税金等調整前当期純利益 1,390 億 600 万円 (24 年 3 月期比 47.6%増)、売上債権及び契約資産の減少額 120 億 3,700 万円 (24 年 3 月期は増加額 5 億 4,400 万円)、棚卸資産の増加額 87 億 9,300 万円 (24 年 3 月期比 76.3%減)、仕入債務の減少額 238 億 6,600 万円 (同 34.8%増)、契約負債の減少額 355 億 7,800 万円 (24 年 3 月期は増加額 614 億 8,300 万円) などにより、712 億 3,400 万円の収入 (24 年 3 月期比 26.0%減) となった。投資活動による CF は、有形固定資産の取得による支出 217 億 8,600 万円 (同 42.8%減) などにより、217 億 7,200 万円の支出 (同 49.9%減) に。財務活動による CF は、配当金の支払額 253 億 1,600 万円 (同 0.2%増)、自己株式の純増額 189 億 3,700 万円 (24 年 3 月期は 1,900 万円) などにより、464 億 6,600 万円の支出 (24 年 3 月期比 32.2%増) となった。

26 年 3 月期の業績見通し…26 年 3 月期の通期業績について会社側では、米国関税の影響を踏まえた減収減益予想としており、売上高 6,210 億円 (前期比 0.7%減)、営業利益 1,170 億円 (同 13.8%減)、経常利益 1,170 億円 (同 15.4%減)、当期純利益 880 億円 (同 11.5%減) の見通し。主な事業セグメントにおいて、売上高予想は、SPE5,020 億円 (同 3.4%減)、GA530 億円 (同 0.3%増)、FT455 億円 (同 38.7%増)、PE150 億円 (同 6.5%増)。また、営業利益予想は、SPE1,210 億円 (同 11.7%減)、GA25 億円 (同 41.8%減)、FT50 億円 (同 63.8%増)、PE10 億円 (同 6.5%減) となっている。なお、中間期については、売上高 2,995 億円 (前年同期比 8.0%増)、営業利益 545 億円 (同 6.4%減)、経常利益 545 億円 (同 7.1%減)、親会社株主に帰属する中間純利益 385 億円 (同 0.9%減) と、増収減益の見通し。

本レポートは、会社側が発表した決算短信や決算説明資料などに基づき作成しており、証券投資の参考となる情報の提供を目的としたもので、証券の売買を勧誘する目的で作成したものではありません。株式の売買取引には、約定代金に対して手数料が必要となります。また、株式は、株価の変動により損失が生じる恐れがあります。投資に関する最終決定は、投資家ご自身の判断でなさいますようお願い致します。本レポートは各種データに基づいて作成していますが、その正確性・完全性を全面的に保証するものではありませんので、予めご了承下さい。なお、本レポートの著作権は西村証券に帰属しており、電子的・機械的などの方法を問わず、無断で本レポートを引用または複製、転送することを禁じます。